



1
通津地区について

通津地区は、山口県東部に位置する岩国市にあり、広島湾中央の西側に面す。

岩国市は、山口市に次いで市域面積が広く、城下町として古くから栄え、数多くの歴史・文化遺産がある。また、市街地から南に 10km 圏内にある当地区においても、歴史的な人物や遺産、田浦相撲や嬉野神楽などの伝統文化が多くある。



干潟の現況

当地区の中央には、通津川が流れ、その前浜に干潟が広がっている。かつて干潟には、数多くのアサリが生息しており、漁業だけでなく、多くの地域住民が潮干狩りを楽しんでいた。しかし、約 20 年前にアサリが激減し、その後も資源が低位で推移し、漁獲量が大きく落ち込んだ。

アサリが激減した理由は、食害や貧栄養など複合的な要因によるものと考えられている。また、その後、資源が回復しない理由は、ナルトビエイやクロダイなどの魚類の食害が主な原因と考えられている。

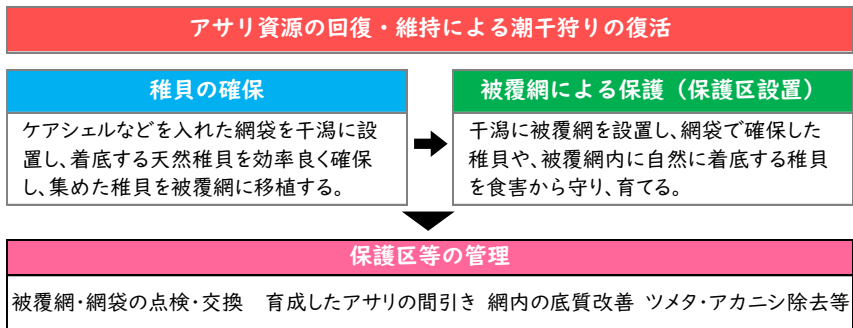
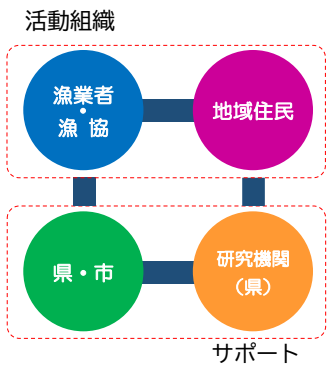
アサリ資源、またそれを育む干潟の生産力の回復は、地区の漁業だけでなく、干潟で潮干狩りを行っていた地域住民にとっても大きな課題であり、現在、その対策が求められている。



組織の設立および活動方針

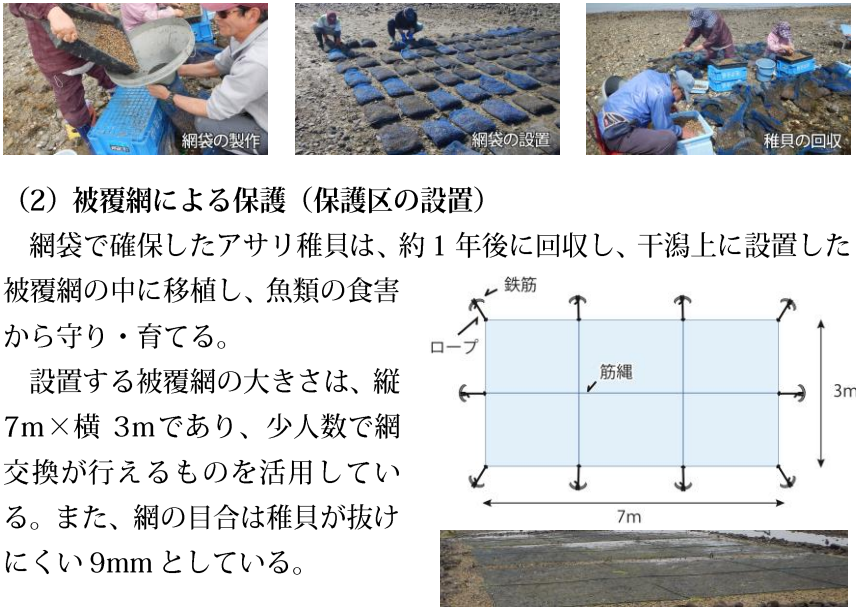
上記課題の中、地区の漁業者や漁協が中心となり「通津アサリグループ」を平成 25 年度に設立し、アサリ資源回復に向けた取り組みを開始した。

活動目標は、『地域住民が潮干狩りできる干潟の再生』であり、以下の方針で活動を進めている。なお、組織体制は、漁業者や漁協、その知人の地域住民とした。



アサリ資源の回復・維持

- (1) 稚貝の確保
- 干潟に着底した稚貝は、魚類の食害により、そのほとんどが消失する。また、天然下における稚貝の分布は一様でなく、その採取に多大な労力を要す。そこで、ケアシエルと砂利（粒径 5-6mm）を 1 対 1 で入れた網袋を干潟に設置し、効率良く稚貝を確保する取組を実施している。
- (2) 被覆網による保護（保護区の設置）
- 網袋で確保したアサリ稚貝は、約 1 年後に回収し、干潟上に設置した被覆網の中に移植し、魚類の食害から守り・育てる。
- 設置する被覆網の大きさは、縦 7m×横 3m であり、少人数で網交換が行えるものを活用している。また、網の目合は稚貝が抜けにくい 9mm としている。
- (3) 保護区の管理
- 保護区に設置する被覆網は、原則、1 年に 1 回交換するようにしている。また、網の上に砂が堆積していないか、藻類で網が被われていないかなど定期的に点検している。加えて、網交換の際に、網内のアサリの密度管理（殻長 4cm 以上を間引き）、客土や耕うんなどの底質改善を必要に応じて行っている。



活動の成果と課題

直近 3 ケ年の保護区（被覆網下）のアサリ生息密度は、600 個/m² 前後で推移する。また、保護区内に設置する被覆網全体（1400m²）におけるアサリ資源量は 84 万個（約 2.3 トン）と推定され、当グループが中期的目標とする 4 トンに近づいている。

現在、保護区内で間引いたアサリを、企業や老人ホームなど地元団体に無償で配布し、地元アサリの復活を喜んでもらっている。また、幼稚園児が間引き作業を体験するなど、徐々にではあるが、地先の干潟の現状や当グループの活動を地域住民に知ってもらう機会が増えてきた。今後も、活動を継続し、かつて潮干狩りで賑わった干潟を復活・継承できればと考える。

